

一級水系における一年間の利用者の総数は、約 2 億 209 万人

一級水系（109水系）の直轄管理区間（ダム湖の区間を含む）の一年間における利用者の総数は約 2 億 209 万人（以下全て推計値）でした。

河川空間の利用者が 1 億 8,818 万人、ダム湖の利用者が 1,391 万人でした。

一年間の利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系 約 2,893 万人
なお、河川単独（ダム湖の区間を除く）では、利根川水系 約 2,733 万人
ダム湖では、宮ヶ瀬ダム 約 157 万人

一年間で利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系（茨城県等）でした。以下、2 位・荒川水系（東京都等）、3 位・淀川水系（大阪府等）、4 位・多摩川水系（東京都等）、5 位・木曽川水系（岐阜県等）の順です。

なお、河川単独（ダム湖を除く）では、利根川水系（茨城県等）、2 位・荒川水系（東京都等）、3 位・淀川水系（大阪府等）、4 位・多摩川水系（東京都等）、5 位・木曽川水系（岐阜県等）の順、ダム湖単独では、1 位・宮ヶ瀬ダム（神奈川県）、2 位・御所ダム（岩手県）、3 位・日吉ダム（京都府）、4 位・三春ダム（福島県）、5 位・草木ダム（群馬県）の順となっています。

利用形態別では、散策が 59.5%で最多
河川単独（ダム湖の区間を除く）では、散策が 57.4%で最多
ダム湖では、散策と施設利用がそれぞれ 34.0%で最多

利用形態別にみると、散策が 59.5%と約半数を占め、次いでスポーツが 29.9%であり、釣りとお水遊びはそれぞれ 10%に満たない状況です。

なお、河川単独（ダム湖の区間を除く）でも、散策が 57.4%と半数以上を占め、次いでスポーツが 31.6%となっています。

ダム湖単独では、散策と施設利用がそれぞれ 34.0%となっています。

河川（ダム湖の区間を除く）における良好な水辺環境の指標となる
夏の水遊び利用者数（1 kmあたり）が最も多かったのは、仁淀川水系 198 人

良好な水辺環境の指標となる夏の水遊びの利用者数（ダム湖の区間を除く直轄管理区間延長 1 kmあたり）が最も多かった水系は、仁淀川水系（高知県）でした。以下、2 位・網走川水系（北海道）、3 位・相模川水系（神奈川県等）、4 位・物部川水系（高知県）、5 位・多摩川水系（東京都等）の順です。

平成18年度 河川水辺の国勢調査 (河川空間利用実態調査・ダム湖利用実態調査) 結果の概要

1. 調査の概要

本調査は、水辺空間の利用状況の実態を把握し良好な河川空間・ダム湖の保全・整備に資することを目的とするものであり、一級水系の国の直轄管理区間（河川の区間約8,770km、国及び独立行政法人水資源機構が管理する102箇所 of ダムの貯水池(沖縄の直轄ダムを含む)）を対象としています。

調査は、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査を実施し、年間利用者数の推定を行うものです。(それぞれの調査の推計方法の詳細は、報告書を参照。)
なお、調査は、平成3年度より概ね3年毎に実施しており、全国109の一級水系と102箇所のダムで調査を実施しました。(最上川水系の中流区間は調査を行っていないため、これらにおける利用者の推計値は含まれていません。)

表1 調査実施日(赤字は休日)

季節	河川	ダム湖
春季	平成18年4月29日(土)(みどりの日)	平成18年4月29日(土)(みどりの日)
	平成18年5月5日(金)(こどもの日)	平成18年5月5日(金)(こどもの日)
	平成18年5月15日(月)	平成18年5月11日(木)
夏季	平成18年7月30日(日)	平成18年7月30日(日)
	平成18年7月31日(月)	平成18年8月3日(木)
秋季	平成18年11月3日(金)(文化の日)	平成18年11月3日(金)(文化の日)
冬季	平成19年1月8日(月)(成人の日)	平成19年1月8日(月)(成人の日)

一部の水系において、天候・地震の発生等の事情により、調査実施日を若干ずらしています。

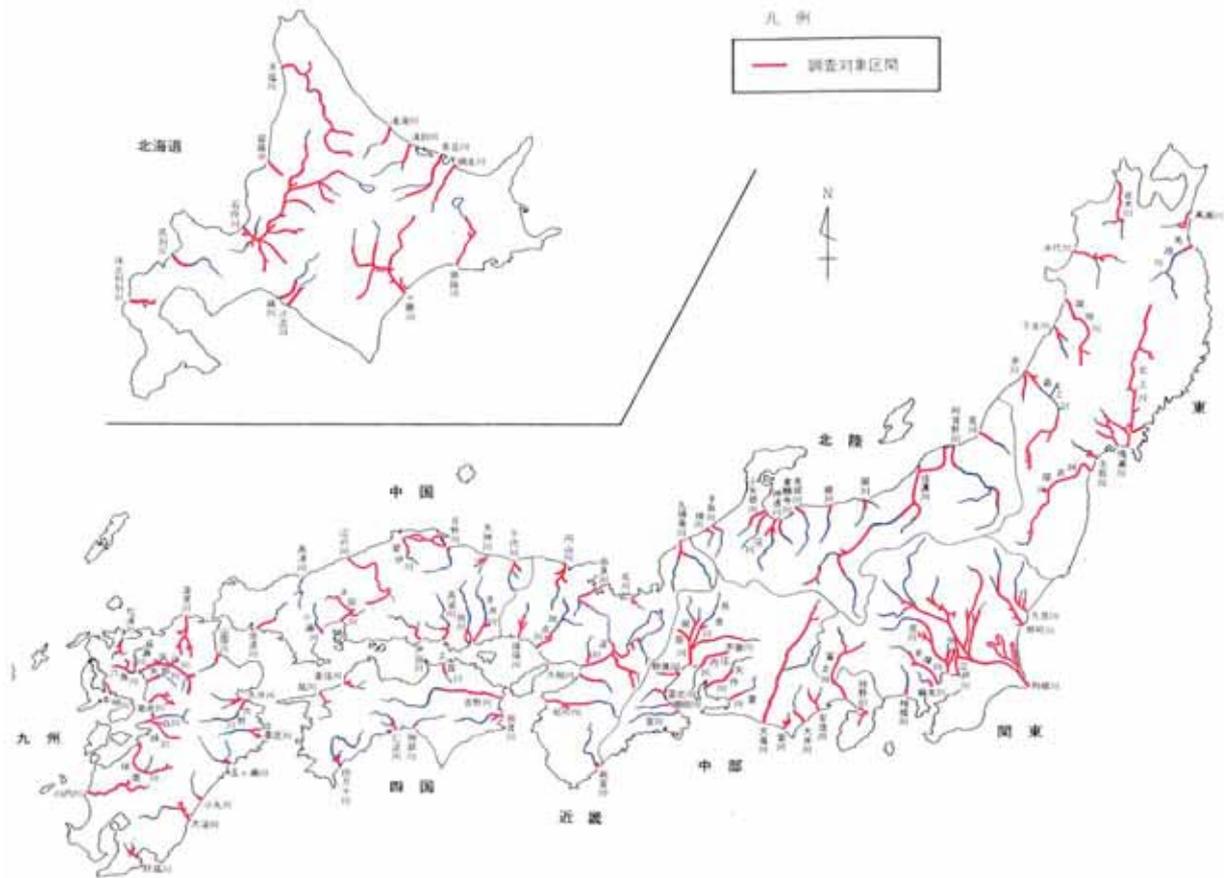


图 1 調査対象水系位置図

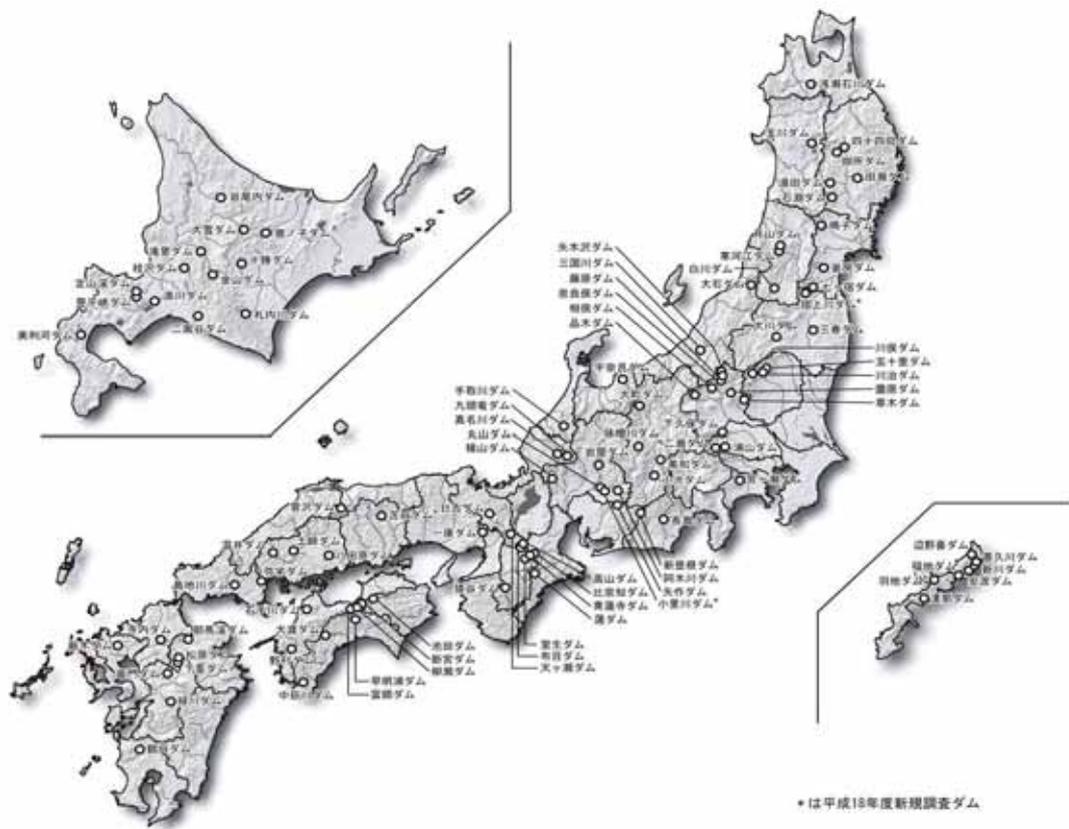


图 2 調査対象ダム位置図

2. 調査結果の概要

一級水系（109水系）における一年間の利用者の総数は、約2億209万人

全国109の一級水系直轄管理区間（ダム湖の区間を含む）の一年間の利用者の総数は、約2億209万人（河川1億8,818万人、ダム湖1,391万人）であり、2回連続2億人を突破しました。

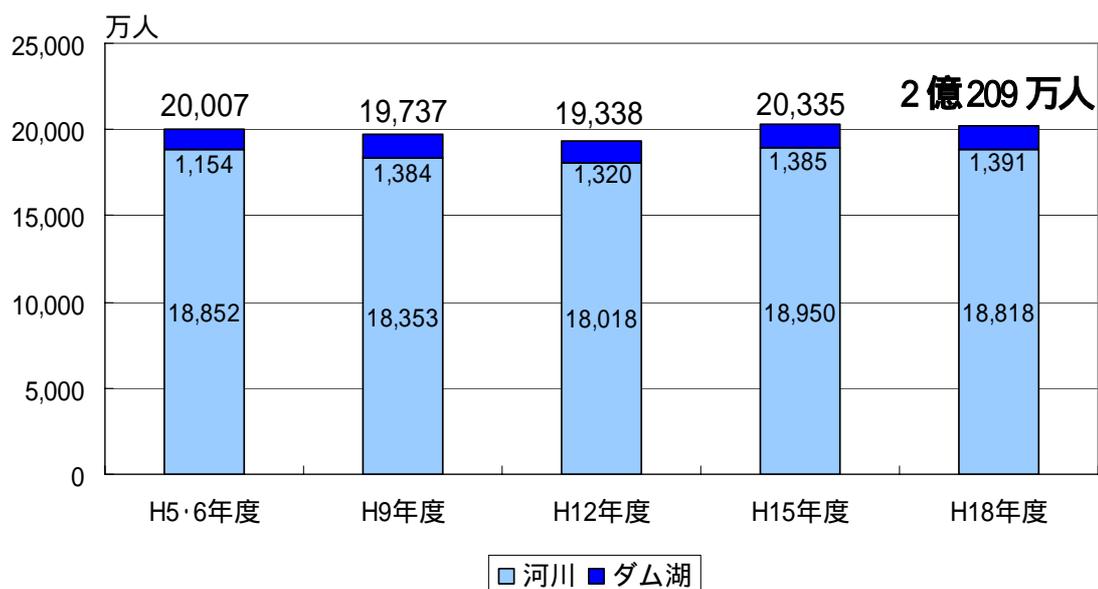


図3 一級水系直轄管理区間の利用者総数

H5年度は河川の調査、H6年度はダム湖の調査を行いました。



石狩川水系（北海道） マラソン



新宮川水系（和歌山県等） カヌー

一年間の利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系（茨城県等）

一年間で利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系（茨城県等）でした。以下、2位・荒川水系（東京都等）、3位・淀川水系（大阪府等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・木曽川水系（岐阜県等）の順です。

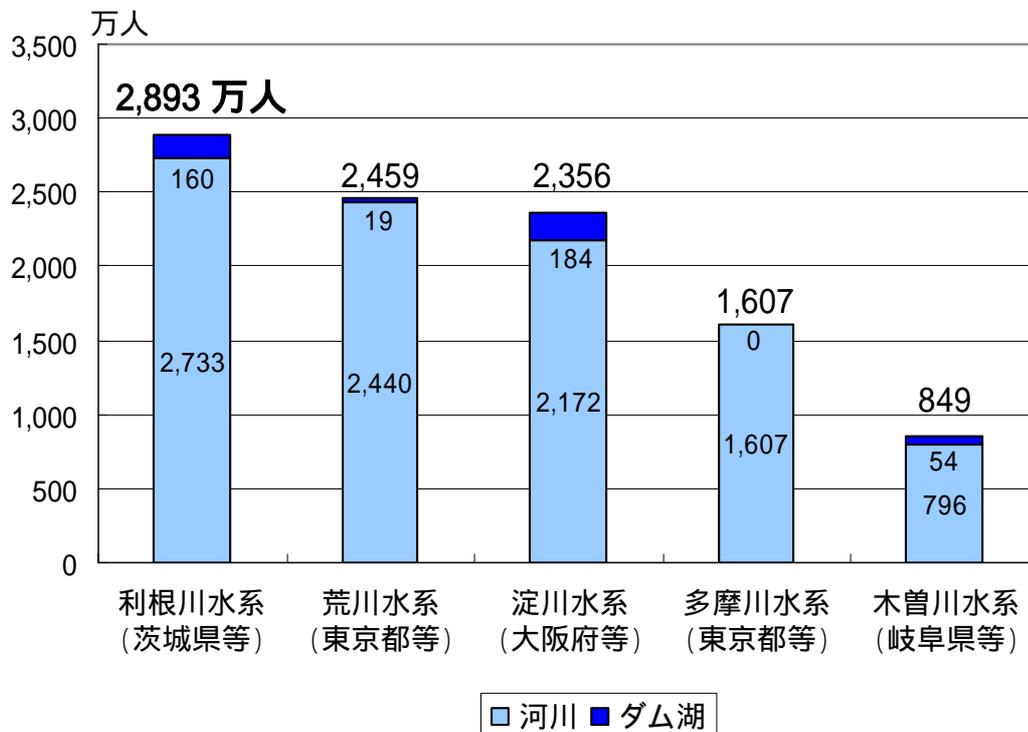


図 4 水系別年間利用者総数 上位 5 水系



利根川水系（茨城県等） ボートフェスタ

利用形態別では、散策が 59.5%で最多

利用形態別にみると、散策が 59.5%と半数以上を占め、次いでスポーツが 29.9%であり、釣りや水遊びはそれぞれ 10%に満たない状況です。

ダム湖の利用形態の「ポート」は「水遊び」に、「その他（キャンプ、写真撮影等の野外活動、レストラン、売店等の各種施設利用、お祭り、催し物、ダム見学等のその他活動）」は「散策」に含めています。

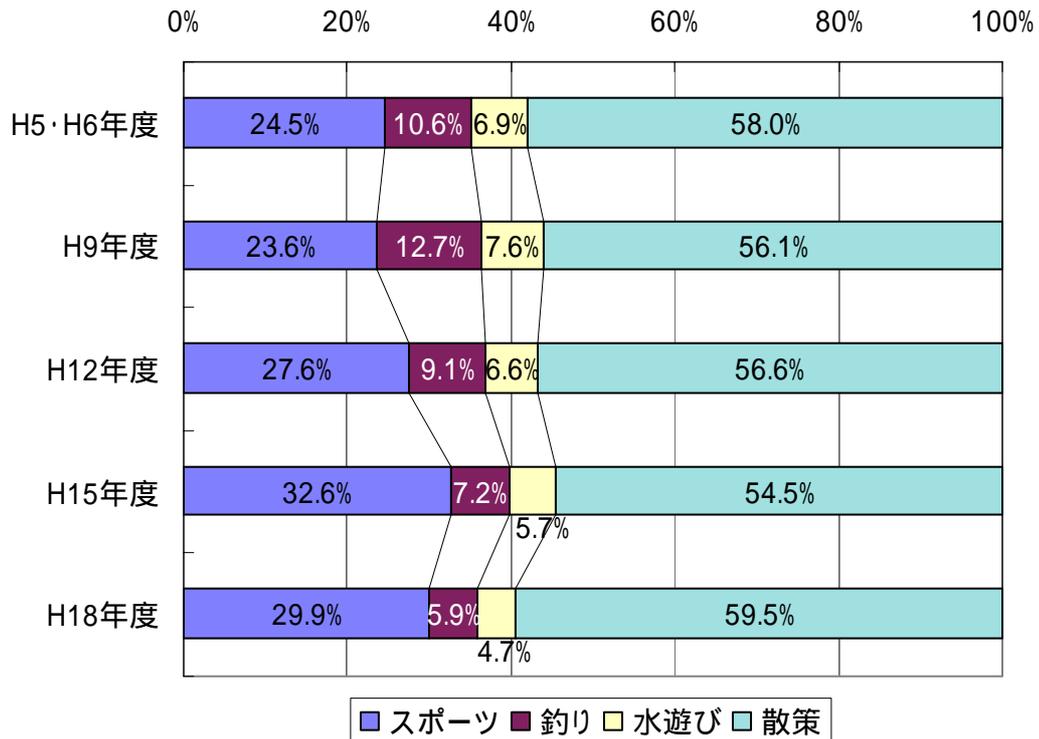


図 5 利用形態別内訳の経年変化



淀川水系瀬田川（滋賀県） 散策

3 . 調査結果の概要(河川編)

河川空間の一年間の利用者総数は1億8,818万人

河川空間の利用者総数は1億8,818万人となり、沿川市町村人口1人当たり年間2.15回利用していることとなります。

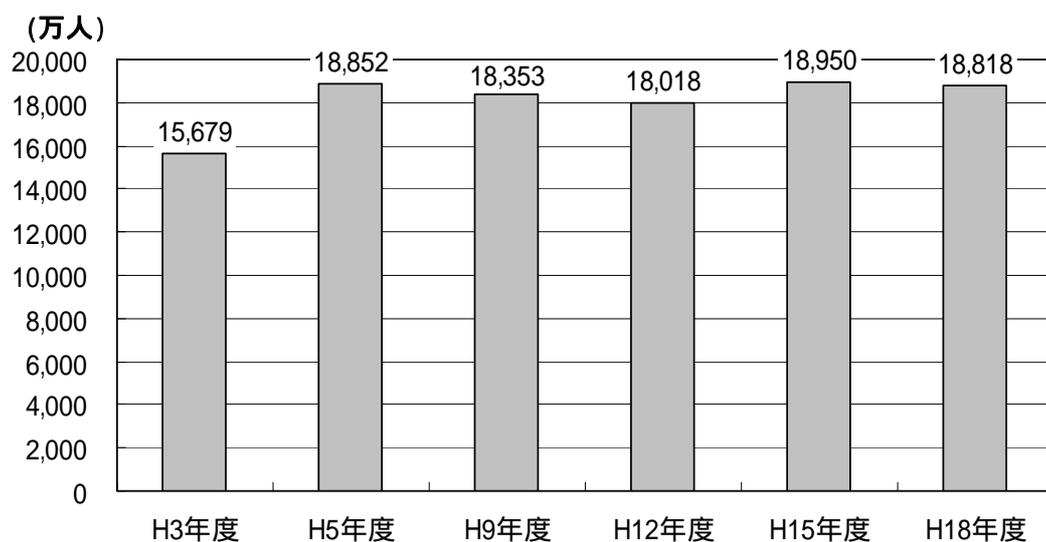


図 6 河川空間利用者総数の推移



利根川水系渡良瀬川(群馬県等) 水遊び

一年間の利用者の総数が最も多かった水系（ダム区間を除く）は、利根川水系

1年間の利用者が最も多かったのは利根川水系（茨城県等）でした。以下、2位・荒川水系（東京都等）、3位・淀川水系（大阪府等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・木曽川水系（岐阜県等）の順です。調査開始以来、1位から4位までは順位の変動はあるものの同じ水系となっています。

また、直轄管理区間延長あたりの年間河川空間利用者総数が最も多い水系は相模川水系（神奈川県等）でした。以下、2位・多摩川水系（東京都等）、3位・荒川水系（東京都等）、4位・鶴見川水系（神奈川県等）、5位・淀川水系（大阪府等）です。

表 2 年間利用者総数ランキング（万人）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	荒川（東京都等）	2,532	利根川（茨城県等）	3,305	利根川（茨城県等）	2,733
2位	淀川（大阪府等）	2,409	淀川（大阪府等）	2,572	荒川（東京都等）	2,440
3位	利根川（茨城県等）	2,165	荒川（東京都等）	2,353	淀川（大阪府等）	2,172
4位	多摩川（東京都等）	1,707	多摩川（東京都等）	1,334	多摩川（東京都等）	1,607
5位	木曽川（岐阜県等）	888	信濃川（新潟県等）	689	木曽川（岐阜県等）	796

全て水系名です。

表 3 直轄管理区間延長あたりの年間利用者総数ランキング（万人/km）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	多摩川（東京都等）	21.7	多摩川（東京都等）	17.0	相模川（神奈川県等）	20.9
2位	荒川（東京都等）	17.5	荒川（東京都等）	16.2	多摩川（東京都等）	20.4
3位	相模川（神奈川県等）	17.1	相模川（神奈川県等）	12.9	荒川（東京都等）	16.9
4位	矢作川（愛知県等）	11.0	淀川（大阪府等）	11.4	鶴見川（神奈川県等）	10.5
5位	淀川（大阪府等）	10.3	安倍川（静岡県）	8.0	淀川（大阪府等）	9.3

全て水系名です。

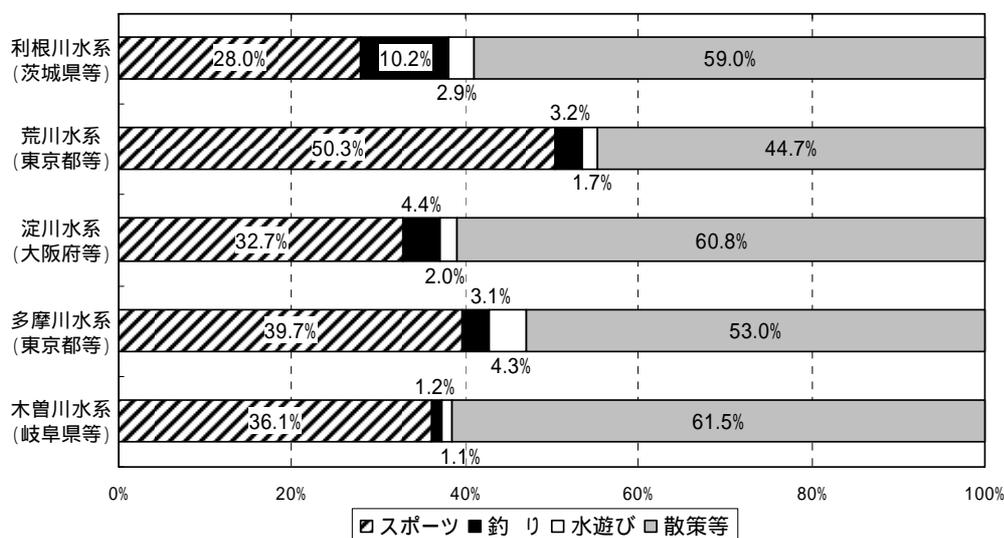


図 7 年間利用者総数ベスト 5 水系の利用形態別内訳（平成 18 年度）

利用形態別では、散策の割合が増加

調査開始以来、利用形態別では散策が常に半数以上を占めており、今回さらにその割合が増加しました。

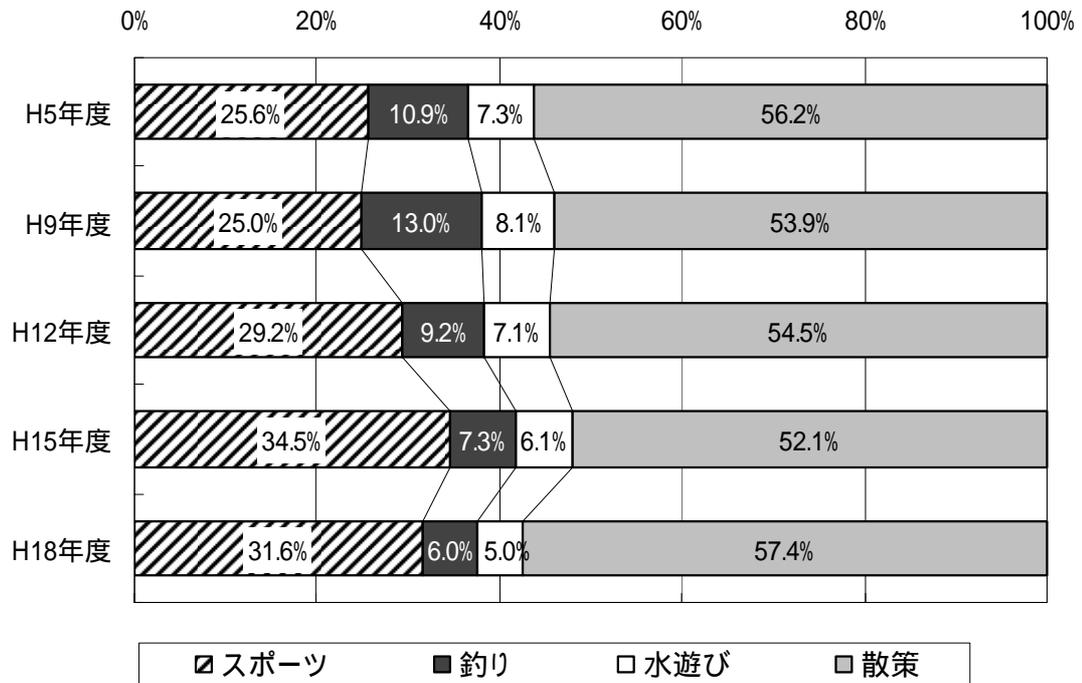


図 8 利用形態別内訳の経年変化



由良川水系（京都府等） 散策



庄内川水系（愛知県等） 散策

一年を通して散策の利用が多く、秋季・冬季はスポーツが増加

一年を通して散策の利用の割合が多くなっており、秋冬にはスポーツの割合が増加します。

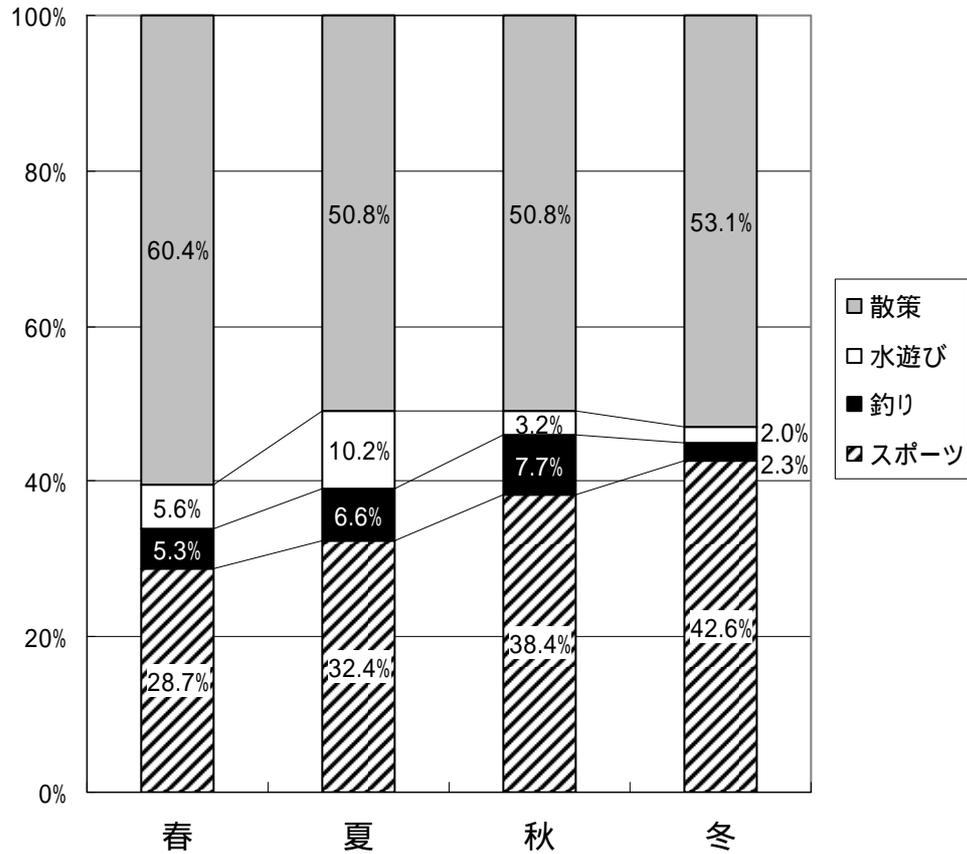


図 9 季節ごとの利用形態別内訳（平成 18 年度）



松浦川水系（佐賀県） 野球



阿武隈川水系（福島県等） テニス

河川（ダム湖の区間を除く）における良好な水辺環境の指標となる
夏の水遊び利用者数（1 kmあたり）が最も多かったのは、仁淀川水系 198 人

水辺に近づき、川自体を利用するという水辺の代表的な活動としては、水遊びや釣りがあげられます。

水遊び利用について

a. 夏の水遊び

川を利用する形態としては、夏における水遊びが代表格ですが、その利用者数を見ると、利根川水系（茨城県等）が最も多く、以下、2位・網走川水系（北海道）、3位・木曾川水系（岐阜県等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・遠賀川水系（福岡県）と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は仁淀川水系（高知県）になりました。仁淀川水系、相模川水系は過去3回の調査において上位に入っています。

表 4 夏の水遊びの利用者数（人）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	利根川（茨城県等）	30,733	木曾川（岐阜県等）	15,653	利根川（茨城県等）	14,369
2位	木曾川（岐阜県等）	22,364	利根川（茨城県等）	10,622	網走川（北海道）	11,082
3位	太田川（広島県）	12,291	淀川（大阪府等）	9,034	木曾川（岐阜県等）	10,407
4位	多摩川（東京都等）	9,649	豊川（愛知県）	8,680	多摩川（東京都等）	9,330
5位	仁淀川（高知県）	9,398	太田川（広島県）	6,300	遠賀川（福岡県）	8,945

全て水系名です。

表 5 直轄管理区間延長あたりの夏の水遊びの利用者数（人/km）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	仁淀川（高知県）	363	豊川（愛知県）	235	仁淀川（高知県）	198
2位	相模川（神奈川県等）	268	相模川（神奈川県等）	235	網走川（北海道）	169
3位	物部川（高知県）	166	仁淀川（高知県）	153	相模川（神奈川県等）	152
4位	大分川（大分県）	165	高瀬川（青森県）	112	物部川（高知県）	152
5位	櫛田川（三重県）	155	網走川（北海道）	87	多摩川（東京都等）	119

全て水系名です。



荒川水系（新潟県等） 水遊び



仁淀川水系（高知県） 水遊び

b. 年間を通した水遊び

年間を通した水遊びの利用が最も多かったのは、利根川水系（茨城県等）であり、以下、2位・多摩川水系（東京都等）、3位・木曾川水系（岐阜県等）、4位・天竜川水系（静岡県等）、5位・淀川水系（大阪府等）と続きます。

直轄管理区間（ダム湖の区間を除く）延長あたりの利用者数をみると、第1位は相模川水系（神奈川県等）になりました。

相模川水系は、直轄管理区間延長あたりの利用者数で見ると、今回も前回・前々回と同様1位となっており、引き続き、水辺の代表的な活動が最も盛んな川と言えます。

表 6 水遊びの年間利用者数（万人）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	木曾川（岐阜県等）	221	荒川（東京都等）	126	利根川（茨城県等）	79
2位	利根川（茨城県等）	90	利根川（茨城県等）	111	多摩川（東京都等）	68
3位	多摩川（東京都等）	59	木曾川（岐阜県等）	93	木曾川（岐阜県等）	65
4位	天竜川（静岡県等）	56	淀川（大阪府等）	58	天竜川（静岡県等）	44
5位	太田川（広島県）	51	多摩川（東京都等）	51	淀川（大阪府等）	43

全て水系名です。

表 7 直轄管理区間延長あたりの水遊びの年間利用者数（万人/km）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
1位	相模川（神奈川県等）	2.2	相模川（神奈川県等）	1.2	相模川（神奈川県等）	1.1
2位	仁淀川（高知県）	1.1	豊川（愛知県）	1.0	多摩川（東京都等）	0.9
3位	櫛田川（三重県）	1.1	荒川（東京都等）	0.9	仁淀川（高知県）	0.8
4位	雲出川（三重県）	1.0	紀の川（和歌山県等）	0.7	矢作川（愛知県等）	0.5
5位	木曾川（岐阜県等）	0.9	仁淀川（高知県）	0.7	物部川（高知県）	0.5

全て水系名です。



物部川水系（高知県） 水遊び



芦田川水系（広島県） 水遊び

釣りについて

釣りの利用が最も多い水系は利根川水系（茨城県等）であり、以下、2位・淀川水系（大阪府等）、3位・荒川水系（東京都等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・紀の川水系（和歌山県等）と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は相模川水系（神奈川県等）でした。

前回調査と同様、都市部を流れる河川が上位に入っています。

ただ、利根川水系、淀川水系など上位の水系は、前回調査でも、今回調査でも、釣りの利用者数は減っています。

表 8 釣りの年間利用者数（万人）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
	水系名	利用者数	水系名	利用者数	水系名	利用者数
1位	利根川（茨城県等）	512	利根川（茨城県等）	397	利根川（茨城県等）	278
2位	淀川（大阪府等）	181	淀川（大阪府等）	138	淀川（大阪府等）	96
3位	荒川（東京都等）	87	荒川（東京都等）	79	荒川（東京都等）	78
4位	木曾川（岐阜県等）	61	木曾川（岐阜県等）	52	多摩川（東京都等）	50
5位	多摩川（東京都等）	57	遠賀川（福岡県）	51	紀の川（和歌山県等）	47

全て水系名です。

表 9 直轄管理区間延長あたりの釣りの年間利用者数（万人/km）

順位	平成12年度調査		平成15年度調査		平成18年度調査	
	水系名	利用者数	水系名	利用者数	水系名	利用者数
1位	相模川（神奈川県等）	1.6	相模川（神奈川県等）	1.0	相模川（神奈川県等）	1.4
2位	物部川（高知県）	1.0	馬淵川（青森県等）	0.9	紀の川（和歌山県等）	0.7
3位	淀川（大阪府等）	0.8	淀川（大阪府等）	0.6	多摩川（東京都等）	0.6
4位	多摩川（東京都等）	0.7	荒川（東京都等）	0.5	荒川（東京都等）	0.5
5位	利根川（茨城県等）	0.7	利根川（茨城県等）	0.5	安倍川（静岡県）	0.5

全て水系名です。



米代川水系（秋田県等） アユ釣り

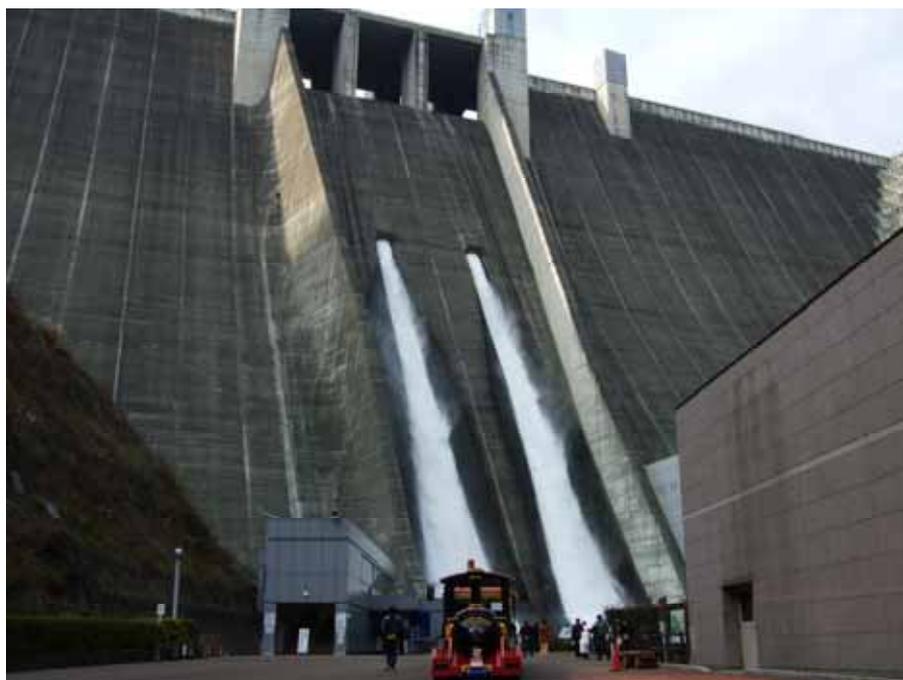
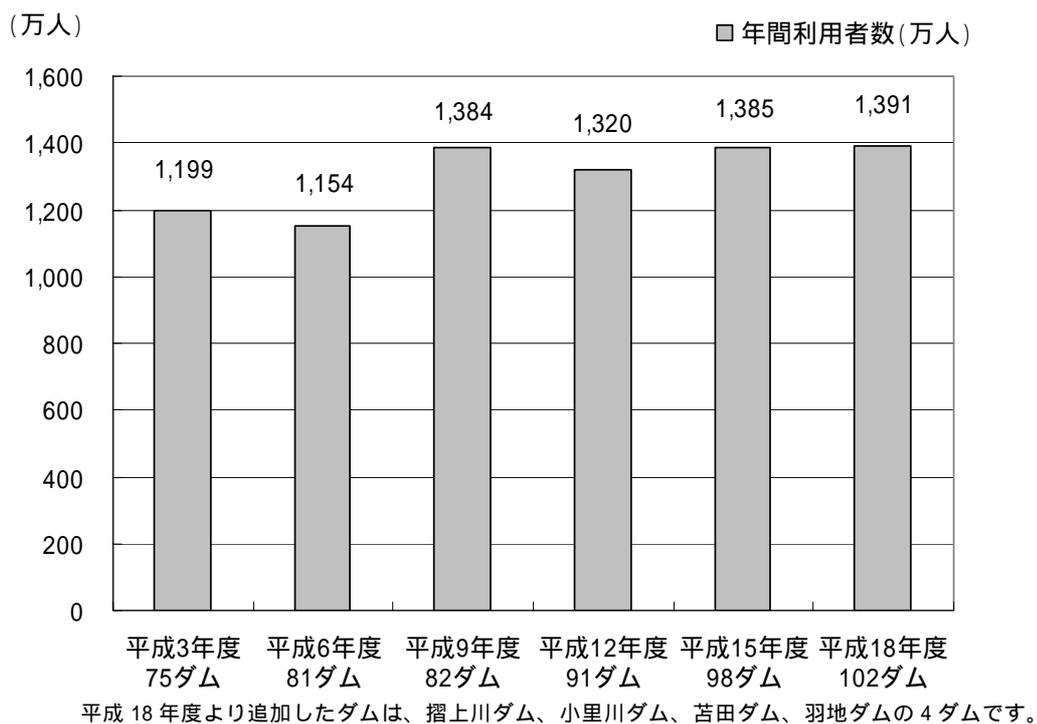


相模川水系（神奈川県等） 釣り

4 . 調査結果の概要(ダム湖編)

H18年度の102ダムにおけるダム湖及びその周辺の年間利用者総数は約1,391万人

国土交通省直轄及び水資源機構が管理する102ダムの年間利用者総数の推計値は、約1,391万人でした。前回調査を行った平成15年度と比べて約6万人増加し、これまでの調査で最多となりました。



宮ヶ瀬ダム(神奈川県) 観光放流

みやがせ
ダム別利用者総数第1位は、神奈川県にある宮ヶ瀬ダム

年間利用者数の最も多いダムは、宮ヶ瀬ダム（神奈川県）でした。

表 10 年間利用者数（総数）のベスト5

順位	平成15年度調査	平成18年度調査
1位	みやがせ 宮ヶ瀬ダム（神奈川県）：約135万人	みやがせ 宮ヶ瀬ダム（神奈川県）：約157万人
2位	ごしよ 御所ダム（岩手県）：約101万人	ごしよ 御所ダム（岩手県）：約96万人
3位	かなやま 金山ダム（北海道）：約73万人	ひよし 日吉ダム（京都府）：約55万人
4位	ひよし 日吉ダム（京都府）：約53万人	みはる 三春ダム（福島県）：約54万人
5位	みはる 三春ダム（福島県）：約43万人	くさき 草木ダム（群馬県）：約52万人

表 11 平成18年度 年間利用形態別ベスト10

順位	総計	利用形態別内訳							イベント
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	
1	宮ヶ瀬ダム (1,569)	天ヶ瀬ダム (179)	下久保ダム (93)	宮ヶ瀬ダム (30)	宮ヶ瀬ダム (598)	日吉ダム (167)	御所ダム (649)	宮ヶ瀬ダム (458)	宮ヶ瀬ダム (369)
2	御所ダム (959)	寺内ダム (94)	布目ダム (68)	矢作ダム (7)	寒河江ダム (244)	室生ダム (130)	宮ヶ瀬ダム (422)	御所ダム (144)	御所ダム (136)
3	日吉ダム (546)	弥栄ダム (66)	弥栄ダム (27)	福地ダム (5)	七ヶ宿ダム (239)	一庫ダム (93)	三春ダム (421)	釜房ダム (46)	釜房ダム (130)
4	三春ダム (542)	竜門ダム (42)	日吉ダム (22)	早明浦ダム (3)	一庫ダム (137)	八田原ダム (54)	草木ダム (379)	弥栄ダム (38)	土師ダム (54)
5	草木ダム (516)	高山ダム (41)	高山ダム (22)	竜門ダム (3)	草木ダム (127)	天ヶ瀬ダム (54)	日吉ダム (316)	五十里ダム (37)	田瀬ダム (32)
6	釜房ダム (422)	宮ヶ瀬ダム (34)	天ヶ瀬ダム (20)	下久保ダム (3)	御所ダム (120)	金山ダム (41)	釜房ダム (310)	田瀬ダム (33)	天ヶ瀬ダム (32)
7	寒河江ダム (401)	土師ダム (31)	青蓮寺ダム (19)	天ヶ瀬ダム (3)	土師ダム (117)	真名川ダム (38)	小里川ダム (159)	土師ダム (30)	野村ダム (26)
8	天ヶ瀬ダム (378)	白川ダム (30)	一庫ダム (15)	田瀬ダム (3)	鶴田ダム (100)	滝里ダム (36)	岩屋ダム (147)	温井ダム (30)	長島ダム (21)
9	七ヶ宿ダム (369)	滝里ダム (28)	三春ダム (14)	相俣ダム (2)	漁川ダム (99)	弥栄ダム (36)	寒河江ダム (138)	相俣ダム (28)	岩尾内ダム (21)
10	一庫ダム (293)	羽地ダム (26)	室生ダム (14)	耶馬溪ダム (2)	奈良俣ダム (92)	二風谷ダム (34)	摺上川ダム (132)	湯田ダム (27)	金山ダム (18)
平均	136	9	6	1	46	12	46	15	11
合計	13,914	943	633	81	4,737	1,236	4,737	1,548	1,079

注1) 数値は年間利用者数（単位：千人）

注2) 平均と合計は全調査対象ダム（102ダム）における推計値

年間利用者数の多いダムは、「大都市の郊外」・「施設が充実」が特徴

年間利用者数の多いダム（上位5位のダム）についての特徴と利用者の多い施設や場所をみると、以下のようになっています。

宮ヶ瀬ダム： 東京や横浜からの日帰り圏内に位置し、公園を散策する人やアミューズメント施設等の利用者が多い。また、イベント等の参加人数も多い。

御所ダム： 盛岡市の郊外に位置し、手作り工房を備えた手づくり村、ゴーカートやサイクル列車を備えた乗り物広場等の施設の利用者が多い。

日吉ダム： ダム堤体と一体となった公園整備がなされており、温泉や体育館を備えたスプリングス日吉、郷土資料館やキャンプ場を備えた府民の森等の施設の利用者が多い。

三春ダム： 郡山市の近郊に位置し、自然観察ステーションや宿泊施設・露天風呂・プール等を備えた多目的施設が集中しているエリアにおいて利用者が多い。

草木ダム： 桐生市の近郊に位置し、総合運動場や富弘美術館、サンレイク草木（国民宿舎）等の施設の利用者が多い。

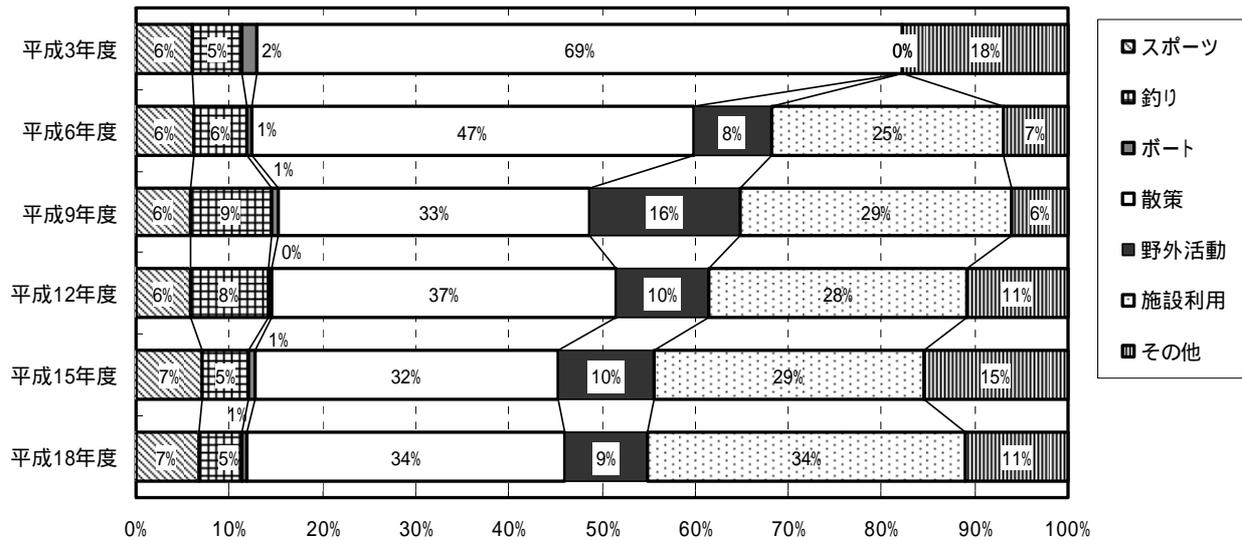
「大都市の郊外に位置している」、「ダム湖周辺のスポーツ・レクリエーション施設が充実している」ということが、これらのダムの特徴として挙げられます。

表 12 年間利用者数上位5位の特徴

順位	ダム名	年間利用者数 (万人)	近隣都市			ダム湖および周辺の特徴	利用者数の多い施設や場所
			名称	人口 (千人)	距離 (km)		
1位	宮ヶ瀬ダム	157	相模原	706	12	・首都圏から日帰り圏内 ・充実した公園施設	及沢園地、県立あいかわ公園
2位	御所ダム	96	盛岡	300	9	・盛岡市郊外 ・湖畔に繋温泉がある	手作り村、乗り物広場
3位	日吉ダム	55	京都	1,469	26	・ダム堤体と一体となった公園施設	スプリングスひよし、府民の森
4位	三春ダム	54	郡山	339	10	・郡山市近郊 ・滝桜が有名	田園生活館、自然観察ステーション、石畑水生生物観察園
5位	草木ダム	52	桐生	125	25	・日光への街道沿い ・美術館や宿泊施設がある	富弘美術館、サンレイク草木（国民宿舎）

利用形態は、散策及び施設利用が最多

利用形態別をみると、散策および施設利用が最も多く約 34%（前回調査：散策約 32%、施設利用 29%）を占め、次いでキャンプや写真撮影等の野外活動が 9%（前回調査：約 10%）、スポーツが 7%（前回調査：約 7%）、釣りが 5%（前回調査：約 5%）となっています。

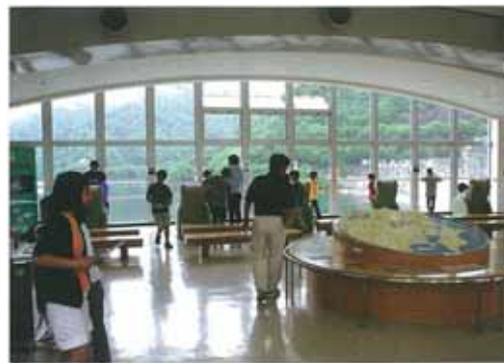


平成3年度調査では、野外活動と施設利用はその他に含まれている。

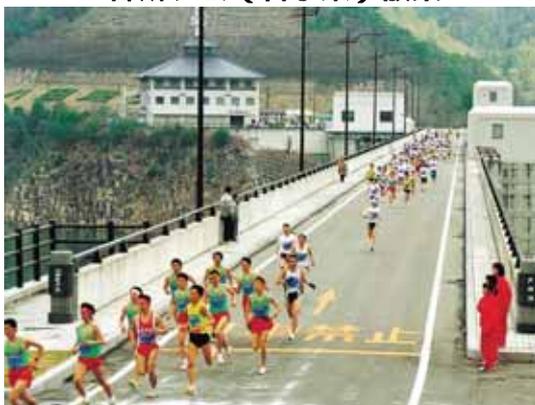
図 10 全国利用形態別グラフ（経年）



御所ダム（岩手県）散策



矢木沢ダム（群馬県）施設利用



八田原ダム（広島県）スポーツ



大町ダム（長野県）野外活動

利用場所別をみると、前回調査と同様に湖畔が約 81%（前回調査：約 83%）と最も多く、次いでダムが約 12%（前回調査：約 9%）、湖面約 7%（前回調査：約 8%）となっています。

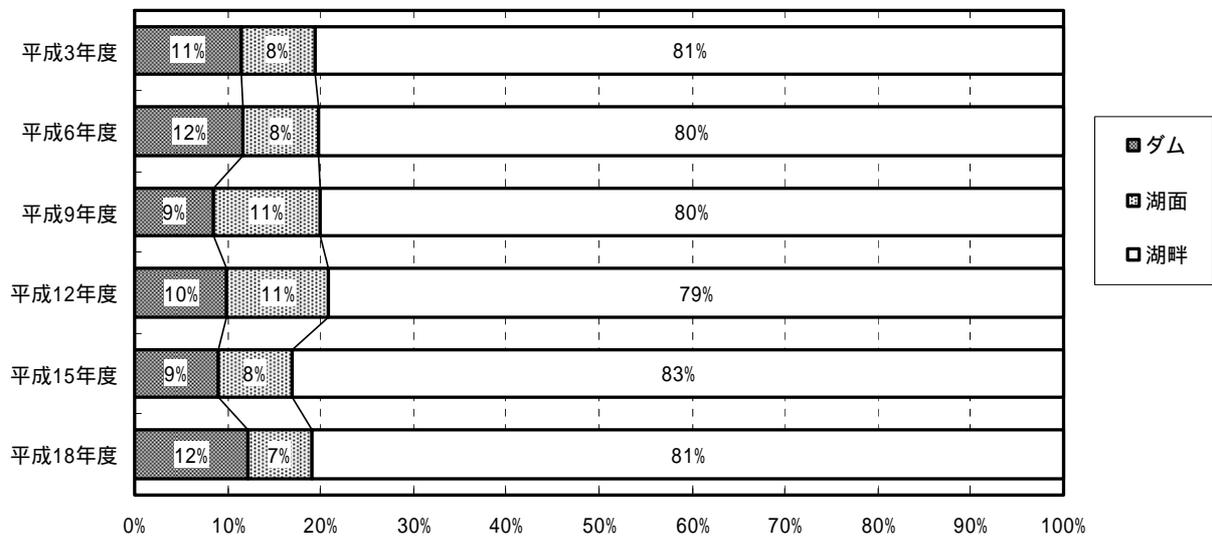


図 11 全国利用場所別グラフ（経年）



三春ダム（福島県）湖畔散策（水ウォーク）



弥栄ダム（広島県）湖面利用